

第 2 回農林水産部会の意見交換テーマ

施策 1 日本の食を支える農業を実現する

[第 1 回専門部会での主な発言]

◇ 産地を支える担い手の確保・育成

- ・ 農業を始めたいという人は増加傾向にあることから、しっかりと実際の就農につなげていく必要があるのではないか。

秋田アグリフロンティア育成研修をはじめ、農業試験場や果樹試験場等々で技術や経営を学ぶ場を創出し、未来を担う人材を育成しているところ。市町村においても品目を限定しつつも人材育成を進めている。

令和 8 年度から官民連携のプラットフォームを設置し、新規就農希望者と農業企業体とのマッチングを強化し、担い手の確保・育成を図っていく。（農林政策課）

◇ 収益性の高い複合型生産構造の確立

- ・ 生産者が安心して生産、販売に取り組めるよう、比内地鶏雛の安定した供給体制の確保が必要。

供給体制については、比内地鶏ブランド認証推進協議会と協議中である。今後、農家や関係団体からの聞き取りしながら検討を進めていく。（畜産振興課）

◇ 農畜産物の付加価値の向上と販路拡大

- ・ 輸出額を増やす取組は非常に重要。米については、多収量品種米の引き合いが強いので考慮すべき。
- ・ 海外への販売は成果がでるまで複数年かかることから、継続性をもって事業を進めるべき。

現在の米の輸出のメインはあきたこまちである。今後は、めんこいな等の多収量品種米を増やす必要があると考えている。（水田総合利用課）

輸出に当たっては、鮮度維持や防疫体制にどう対応するかが重要。メーカーや地域振興局と協力しながら実証実験を進めており、継続した産地側の取組により、取引量の拡大を図っていく。（販売戦略室）

【ご意見をいただきたい事項】

- 担い手の安定確保に当たっての課題と解決に向けた取組
- 米の生産拡大（需要の獲得との両輪）に当たっての課題と解決に向けた取組
- 園芸品目の生産拡大に当たっての課題と解決に向けた取組
- 秋田牛や比内地鶏等の生産拡大に当たっての課題と解決に向けた取組
- 輸出の拡大に当たっての課題と解決手法

※ その他、上記以外の事項についても必要に応じてご意見をお願いします。

[キーワード]

- ・付加価値の向上
 - ・国内外のマーケットにおける販路拡大
 - ・有機、特裁、減・減栽培の推進
 - ・スマート技術の普及
 - ・ほ場整備の推進
- 等々

施策2 森の恵みを未来へつなぐ林業・木材産業を実現する

[第1回専門部会での主な発言]

◇ 林業を支える人材の確保・育成

- ・ クマ対策等により人力作業が増え人手が不足している。林業、農業が連携、協力して山を守っていく必要がある。※施策4での発言と内容が重複
- ・ 外国人労働力の活用に当たり、手続きが複雑で難しいことから支援が必要ではないか。外国人女性へのサポートも重視していく必要がある。

林業現場における労働環境を改善し、女性の方も働きやすいような職場環境づくりを重点的に支援し定着率を高めていく。(林業木材産業課)

【ご意見をいただきたい事項】

- 林業就業者の安定確保に当たっての課題と解決に向けた取組
- 低コスト・省力造林技術の普及・定着に当たっての課題と解決に向けた取組
- 県産材の利用・販路拡大に当たっての課題と解決に向けた取組

※ その他、上記以外の事項についても必要に応じてご意見をお願いします。

[キーワード]

- ・ エリートツリー等の優良苗木の安定供給
- ・ 森づくりの機運醸成 等々

施策３ 環境変化に対応した新たな水産業を実現する

[第１回専門部会での主な発言]

◇ 新たな漁業への挑戦

- ・ 他産業における廃棄物の有効活用は重要な視点である。
- ・ 養殖は様々な沿岸地域で取り組み可能。可能性があり積極的に進めるべき。
- ・ 養殖作業は漁師でなくてもできる簡単な作業。女性でも作業可能であり、幅広く推進していく必要がある。

漁獲量は減少傾向にあり、安定した収入を得るために養殖は非常に重要な取組となっている。現在、様々な魚種で実証を進めている（水産漁港課）

【ご意見をいただきたい事項】

- 蓄養殖の推進（種苗確保含む）に当たっての課題と解決に向けた取組
- 蓄養殖した魚介類の販売促進や高付加価値化への課題と解決に向けた取組
- 温暖化への対応（種苗生産・放流）の課題と解決に向けた取組

※ その他、上記以外の事項についても必要に応じてご意見をお願いします。

[キーワード]

- ・ 漁業従事者の就業の継続
- ・ 新規漁業就業者の安定確保 等々

施策４ 活力あふれる明るい農山漁村を実現する

〔第１回専門部会での主な発言〕

◇ 次世代につなぐ持続可能な農山漁村の形成

- ・ 高齢化が進んだ地域に漁業、農業、林業のプロが手助けする仕組みが必要ではないか。観光とコラボレーションするプロジェクトやイベント等を実施してはどうか。

人が地域に関わるようになることが最も重要。関わり方がわからない、アイデアを形にできないといったこともあることから、AKITARISEといった人材育成研修を実施しているところ。（農山村振興課）

- ・ 既存の集まり単位を、今後の取組の核としていくことが重要ではないか。農業の集まりに漁業者も参加することで農地の話に加え、様々な話ができる。農村RMOにもつなげていく必要がある。

農業者だけではなく、多様な人材を巻き込んで協議会を作ってもらい取組を進めている。集落協定や中山間直接支払組織、集落営農や農業法人が自治会やPTA等と一緒に活動し、これまでの集落活動を継続していく取組となっており、最終的に農村RMOを目指しているところ。（農山村振興課）

※共通的要素を持った発言

- ・ フリートークで語れる場所や機会が必要。県の担当者等も参画して欲しい。
- ・ それぞれの業種単体での取組は限界であり、地域や業種、各種施策も組み合わせながら進めることが重要。
- ・ 外国人労働力の活用推進のため、ダイレクトに紹介する仕組みや組織が必要。

【ご意見をいただきたい事項】

- 農山漁村の未来を拓く人材の育成に当たっての課題と解決に向けた取組
- 農村ＲＭＯ（農村づくり）の推進に当たっての課題と解決に向けた取組
- オンリーワンビジネスの推進に当たっての課題と解決に向けた取組

※ その他、上記以外の事項についても必要に応じてご意見をお願いします。

[キーワード]

- ・ 農地保全活動の促進
- ・ 語れる場の創出
- ・ 地域や業種を超えた連携
- ・ 様々な分野施策を組み合わせた総合的な取組支援 等々